

ヒメトビウンカの越冬世代幼虫保毒虫率及び 今後のイネ縞葉枯病対策について

イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が高い地点が確認されています。
田植え前に育苗箱施用剤を使用するなど、引き続き、防除対策を実施しましょう！

1. 検定結果

2月28日および3月7、12日に、坂東普及センター管内（古河市、坂東市、五霞町、境町）の水田畦畔等からヒメトビウンカ越冬世代幼虫を採集し、イネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率を調査しました。その結果、昨年と比べて6地点中4地点で保毒虫率は低下しました。しかし、矢作地区においては5%（※）を大きく上回り、16.5%となりました（表1）。引き続き、防除対策を徹底しましょう。

（※）県農業研究所のイネ縞葉枯病防除マニュアルにおいて、育苗箱施用等による薬剤防除を推奨する値。

表1 各地点で採集されたヒメトビウンカ幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率

調査地点	保毒虫率(%) ¹⁾		
	令和5年	令和6年	令和7年
古河市(総和地区) ²⁾	3.2	5.3	2.7
古河市(三和地区) ³⁾	7.4	3.1	2.1
坂東市(矢作地区) ²⁾	4.8	8.6	16.5
坂東市(猿島地区) ³⁾	3.2	3.1	1.0
五霞町 ³⁾	1.1	5.2	3.1
境町 ³⁾	2.1	1.0	2.1
平均	3.6	4.4	4.6

1) 簡易ELISA法により検定口

古河市(総和地区)及び坂東市(矢作地区)は県病害虫防除部調査、その他は普及センター調査

2) 採集日: 令和7年2月28日、検定日: 令和7年3月10日 サンプル数: 各地点188頭

3) 採集日: 令和7年3月7日、12日 検定日: 令和7年3月25日 サンプル数: 各地点94頭

2. 防除対策

県西地域のヒメトビウンカにおいて、イミダクロプリド（主な商品名；アドマイヤーCR箱粒剤）の効果が低下傾向にあることが報告されています（※）。また、トリフルメゾピリムもしくはフルピリミンを成分に含む育苗箱施用剤の効果が高いことも報告されています（※）。表2を参考に効果の高い育苗箱施用剤を使用しましょう。イネ縞葉枯病を抑えるためには地域一体となった防除が重要です。抵抗性品種においても、育苗箱施用剤を使用するようにしましょう。

（※）令和2年度県農業研究所主要成果に基づく。

表2 ウンカ類に効果の高い育苗箱施用剤の例

薬剤名	希釈倍数 使用量	使用時期	使用方法	本剤の 使用回数	有効成分	
					種類	総使用回数
ゼクサロン パディート 箱粒剤	育苗箱(30×60× 3cm、使用土壌 約5L)1箱あたり 50g	播種時(覆土前) ～移植当日	育苗箱の上から 均一に散布する	1回	シアントラニプロール	1回
		播種前	育苗箱の床土又 は覆土に均一に 混和する		トリフルメゾピリム	1回
フェルテラ ゼクサロン 箱粒剤	育苗箱(30×60× 3cm、使用土壌 約5L)1箱あたり 50g	播種時(覆土前) ～移植当日	育苗箱の上から 均一に散布する	1回	クロラントラニプロール	1回
					トリフルメゾピリム	1回
フェルテラ チェス箱粒剤	育苗箱(30×60× 3cm、使用土壌 約5L)1箱あたり 50g	播種時(覆土前) ～移植当日	育苗箱の上から 均一に散布する	1回	クロラントラニプロール	1回
					ピメトロジン	3回以内 (但し、移植時までの処理は1 回以内、本田では2回以内)
リディアNT 箱粒剤	育苗箱(30×60× 3cm、使用土壌 約5L)1箱あたり 50g	播種時(覆土前) ～移植当日	育苗箱の上から 均一に散布する	1回	フルピリミン	3回以内 (但し、移植時までの処理は1 回以内、本田では2回以内)
		播種前	育苗箱の床土に 均一に混和する			
アレス箱粒剤	育苗箱(30×60× 3cm、使用土壌 約5L)1箱あたり 50g	播種時(覆土前) ～移植当日	育苗箱の上から 均一に散布する	1回	オキサゾスルフィル	1回
		播種前	育苗箱の床土又 は覆土に均一に 混和する			

- ・参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください（令和7年3月12日登録確認）。
- ・農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等注意到意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。
- ・農薬の安全性評価に新たな手法として短期暴露評価が導入されることとなりました。それにともない、農薬によっては使用できなくなる作物が生じたり、使用方法の変更が行われる場合があります。短期暴露評価により使用方法の変更がされた農薬は、農薬容器のラベルに記載された使用方法ではなく、変更後の使用方法が記載されたメーカーのチラシ等、最新の情報に従って使用してください。最新の情報は農薬の販売店等や茨城県（病虫害防除部）のホームページ等で確認してください。

令和7年産の水稻育苗における種子の取り扱いのポイント

1. 主食用品種について

令和7年産に用いられる水稻種子は、全品種共通で登熟期間が高温であったことから、例年より休眠がやや深い傾向にあり、出芽の遅れやばらつきが発生する可能性があります。

表1の目安のとおり浸種日数を通常より1日以上長くしましょう。なお、浸種の際は、こまめに種子の状態を確認し、水温は10～15℃程度としてください。

高水温の浸種は出芽がばらつく原因となります。低水温で長期間浸種しても出芽は良くなりません。水温は必ず確認しましょう。

表1 令和7年産の水稻育苗における浸種方法の目安

品種	通常の浸種方法		令和7年産育苗時の 浸種方法
	浸種積算温度	浸種日数 (水温10℃の場合)	
コシヒカリ	120℃	12日間以上	<u>左記日数より 1日以上長く する。</u>
ふくまるSL			
一番星			
にじのきらめき	120～135℃	13日間以上	
ゆめひたち	110℃	11日間以上	
その他主食用品種 及び 月の光	100℃	10日間以上	

2. 飼料用品種について

飼料用品種の中には、休眠が深いものがあります（オオナリ、北陸193号等）。休眠が深い品種を作付ける場合は、浸種の前に休眠打破の処理が必要です。休眠打破を行わないと発芽率がかなり低くなるため（図1）、以下の方法を参考に、適切に休眠打破を行いましょう。

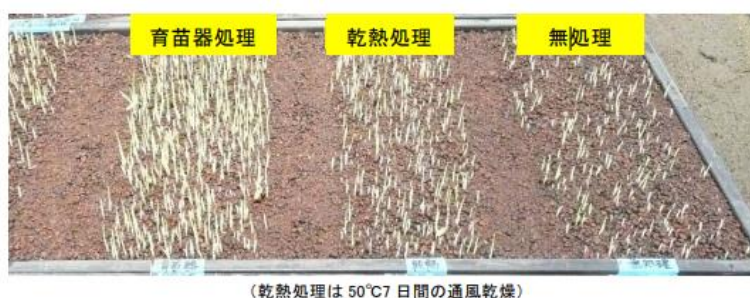


図1 休眠打破の違いが出芽率の違いに及ぼす影響

(1) 乾熱処理

- ① 40～60℃の通風乾燥で5～7日間
- ② 種子をいれるのは、網袋でも紙袋でも可

(2) 育苗器（蒸気式加温出芽器）処理

- ① 種子を入れた網袋または紙袋をポリ袋に入れて、育苗箱の上にのせる。ビニール袋の口は折り曲げるのみで密閉しない（図2）。
- ② 40℃にセットした育苗器内で6日間程度静置する。
- ③ 途中で育苗器の水量を確認する（空だきしないように注意）



図2 育苗器処理の状況

図1と図2は『インド型水稻品種「北陸193号」多収栽培の手引き（新潟以南版）』（農研機構2019）より引用

(https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/hokuriku19320190719.pdf)